



# 池口史子展

— 静寂の次 — 2008年10月7日[火]—11月24日[月]

主催=渋谷区立松濤美術館・日本経済新聞社 休館日=10月14日[火]、20日[月]、27日[月]、11月4日[火]、10日[月]、17日[月]

入館料=一般300円(240円) / 小中学生100円(80円) ※()内は団体10名以上・60歳以上の方及び障害者の方は無料・毎週土曜日は小中学生無料  
開館時間=午前9時～午後5時(ただし、入館は4時30分まで)

講演会=10月25日[土] 午後2時～「静謐なる絵画」 本江邦夫氏(多摩美術大学教授・府中市美術館館長)

**渋谷区立松濤美術館**

〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14 Tel.03-3465-9421  
JR渋谷駅下車徒歩15分 京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分

# 池口史子展

— 静寂の次 —



《勝負》1963年 油彩・キャンバス



《橋》2002年 油彩・キャンバス ダイコク電機株式会社蔵

池口史子は、東京藝術大学美術学部油画科(山口薫教室)で学び、同大学院在学中より個展を開催。以後、立軌展、安井賞展、両洋の眼展など数々のグループ展や招待展に作品を発表し、1993年には倫雅美術奨励賞、2002年には両洋の眼展で河北倫明賞、2005年には第27回損保ジャパン東郷青児美術館大賞を受賞しています。

1980年代後半よりアメリカ、カナダを精力的に取材し、北アメリカの広漠とした大地に広がる光景、或いは寂寥とした異国の町並みを描いた風景画で独自の世界を展開しました。また、妖艶な生命感にあふれる花をモチーフとした静物画のほか、近年では損保ジャパン東郷青児美術館大賞

受賞作「ワイン色のセーター」に代表される、もの憂げな中にも凛としたたずまいを見せる都会的雰囲気、漂う女性像をてがけ、今日の具象画壇で顕著な活躍を示す画家の一人です。

本展では、東京藝術大学在学中の初期作品から最近作までの油彩、挿絵約100点を陳列し、池口氏の画業を紹介いたします。愁いを帯びた色彩に彩られた作品からは、作者の対象を捉える厳しい眼差しと豊かな詩情、そして、作者自身の生命を作品に注ぎこむかのような真摯な姿勢を観ることができると思われます。



《残された家》2000年 油彩・キャンバス



《赤いアマリリス》2005年 油彩・キャンバス



《ワイン色のセーター》2002-3年 油彩・キャンバス

◎講演会

10月25日(土) 午後2時～

講師: 本江 邦夫氏

(多摩美術大学教授・府中市美術館館長)

◎美術相談

11月1日(土) 戸田 康一

11月23日(日) 大和屋 巖

◎美術映画会

10月26日(日) 午後2時～

「宿命の女とラファエル前派 ロセッティ、ミレイ」

「世紀末からのメッセージ ギュスタブ・モロー、クリムト」

11月24日(月) 午後2時～

「フェルメール 素寂のフェルメール」

「マリー・ローランサン 私は贅沢が好き」

◎池口史子氏によるギャラリートーク

10月11日(土) 午後2時～

◎学芸員によるギャラリートーク

11月2日(日) 午後2時～

11月15日(土) 午後2時～

次回展のお知らせ:

素朴美の系譜 2008年12月9日(火)～2009年1月25日(日)

## 渋谷区立松濤美術館

THE SHOTO MUSEUM OF ART

〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14 Tel. 03-3465-9421

JR渋谷駅下車徒歩15分 京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分

<http://www.city.shibuya.tokyo.jp/>

